2
改造お印
22

六左衛門　とにかく海岸の方をずつとさがし（お）
しらせろ。奥さまがすぐ後から追つかけ
ておいでなすつたといひなすつたから大丈夫だと
は思ひますが……

かつら　お父さまは藤川を殺してしまふつ

しいつてらしつたんだからねえ。

六左衛門　この度は旦那さまは……（お愛しいこんでございます。爺やだつて泣かずにはをれません。）

それにしてもあのたき、
にしてもまア十年といふもの、
あの痩（骨の髄まで）て行く足を（能えず）旦那さま

1

に奉公していて、海山の御恩を蒙つて
ゐる義理でございます。それだのにあいつまでが一緒に
なつて旦那さまにこのやうな仕打をするとは……

かつら　爺や……（あたしたちが不運なんだよ）（下手へかゝる）

六左衛門　はい……（月を仰ぎながら気抜
けしたやうな態にて下手へ）

（藤川とたき、家の中からあたりに気
をくばりながら出て来る。）

藤川　六左衛門の爺世迷言とくりか
へしてゐやがる。暫らくせしくとれ引き渡

MARUZEN I